日光街道 幸手宿
まちあるきコース

宿場めぐり MAP

日光街道

幸手宿 さってじゅく

Start 幸手駅 東口 / 西口

- 約3.0km 幸手宿演奏基本コース
- 約6.0km 上高野興辺南コース
- 約7.2km 権現堂堤北コース

(志手橋周辺)

幸手宿 南端
- 神明神社
- 高札場跡
- 岸本家住宅主屋
- 明治天皇行在所跡
- 旅館「朝萬」
- 永文商店
- 問屋場跡
- 本陣跡
- 長崎屋跡
- 聖福寺
- 幸手一里塚
- 正福寺
- 幸手駅 北口

祥安寺
- 石井酒造 (御成道との合流点)
- 上高野神社
- 天満宮
- 大河寺中墓地 (光福院跡)
- 神宮寺

熊野神社
- さくらフルーツ公園
- 権現堂堤散策 (幸手駅から権現堂堤アクセス 徒歩1.2km)
- 行幸堤之碑
- 橋守部翁遺蹟碑
- 寶持寺

雷電神社
- 妙観院
- 幸宮神社
- 満福寺
- 天神神社
- 一色稲荷神社

Goal 幸手駅 東口

※それぞれのコースは逆回りでもお楽しみ頂けます。
※歩行距離は、あくまで目安です。
※私有地への立ち入り、寺社等の管理地での見学、文化財への接触などには十分ご注意下さい。

0 100m 200m N
1/6000

アイコンの説明(両面共通)

- 蔵・建築物
- 門 神社
- 寺 院
- 道 標
- 一色氏縁の地
- 食事処
- カフェ
- 土産処
- 旅館・ホテル
- 自然景観
- 史 跡
- 寺 院
- 土 産
- 史 跡
- 苔 寺
- 祭 事
- 案内所
- トイレ
- 駐車場

お食事処 市外局番 0480

R-1	花灯路	和食・懐石料理	43-0150
R-2	前田亭	ハンバーグ	43-0211
R-3	味楽亭	中国料理	43-0611
R-4	中華厨房 武	ラーメン中華	44-4141
R-5	安兵衛 鮨	寿司・海鮮	42-0010
R-6	たむらや	定食・和洋中	43-9000
R-7	十割そばふくろう	蕎麦・そば	43-1431
R-8	サンバンダ	インド料理	44-2323
R-9	来集軒	ラーメン中華	42-3042
R-10	井草食堂	定食・和洋中	42-0201
R-11	更科	そば・うどん	42-0424
R-12	和処 すずや	和食	44-2563
R-13	ファイブニュレストランパンク	定食・和洋中	42-0616
R-14	KITCHEN 匠	レストラン・居酒屋	090-2732-8304
R-15	義語家	居酒屋・和食	42-0026
R-16	割烹 ときわ	居酒屋・和食	42-0039
R-17	中華 すずめ	ラーメン中華	44-0766
R-18	清水屋	ラーメン中華	42-0778
R-19	大村庵	そば・うどん	43-3591
R-20	邵 subaru	中国料理	080-1005-4909
R-21	鰻勝	うなぎ・和食	42-9251
R-22	きむら屋	ラーメン中華	43-5307
R-23	満留家	ラーメン中華	42-0777
R-24	ふぐ割烹 はす沼	和食・割烹	42-0363
R-25	魚万	和食・割烹	43-1161
R-26	森田家	和食・懐石料理	42-0133
R-27	レストラン プロローグ	そば・うどん	43-2345
R-28	いこい食堂	ハンバーグ	43-4003
R-29	蕎麦 櫻花	定食・和洋中	42-0315
		蕎麦・そば	43-9300

カフェ 市外局番 0480

C-1	Days café	軽食・喫茶	43-0004
C-2	喫茶 ビスカス	軽食・喫茶	42-3895
C-3	上庄かふぇ	軽食・喫茶	57-7129
C-4	珈琲 珈処	軽食・喫茶	48-6426
C-5	さと	アフタヌーンティー	44-1395
C-6	モンテすぎやま	軽食・喫茶	42-0318
C-7	ティーセッパ ちとせ	軽食・喫茶	43-3592
C-8	峠の茶屋	ハンバーグ・喫茶	44-0873
C-9	ローズハウス	ケーキ・洋菓子	43-8266

こらむ 幸手宿と弥次喜多道中

仮名垣魯文(かながきろぶん)が1857(安政4)年に出版した滑稽本『日光道中膝栗毛』では、おなじみの弥次郎兵衛・喜多八が、江戸から奥日光中禅寺まで旅をし、江戸に帰り着くまでの珍道中が描かれている。幸手宿では、杉戸宿で始まった両者の喧嘩が続き、栗橋宿でようやく仲直りしている。

名古屋市蓬左文庫所蔵

こらむ 「絵馬のまち」幸手

江戸末期以降、幸手は「絵馬の町」としても知られ、狩野派の絵師狩野(鈴木)探妙、その実子で権現堂堤修復絵馬の作者として知られる鈴木国信、また国信の実弟で、仲町の通称「えまや」(現・大久保商店)の初代絵師・松林斎亀山(大久保兼吉)など、数多くの絵師を輩出している。

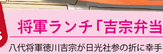
「権現堂堤修復絵馬」鈴木国信 (市指定文化財)

こらむ トロッコが走る

街道に面する店舗の敷地は「短冊状地割」と呼ばれ、間口に対し奥行きが長い。そのため奥に配置された倉庫から前面店舗へ効率よく荷物を店に運ぶためトロッコが用いられ、幸手では長島カラクス氏、成田金物店や、「横丁鉄道」として親しまれる永文商店の3店がある。

こらむ 将軍ランチ「吉宗弁当」

八代将軍徳川吉宗が日光社参の折に幸手で食べた昼食の献立を、2010(平成22)年、早稲田大学文化構学部「食の文化研究会」の協力を得て再現された。「吉宗弁当」と名付けられ、「割烹ときわや」で提供されている(要予約)。



幸手宿の歴史

幸手の始まり

幸手の地名は諸説あり、アイヌ語で「砦のいる所」を表す「さっこ」とする説や、「水が溜った流れ」を表す「さっこ」とする説が有力とされている。また後醍醍の「下河のおり」説、「蘆(さか)鳥」説、「佐(さ)手(て)」説など諸説ある。幸手は昔はくは総の国に属し、後に下総国に編入され、「国造」は「国造(くにのみやつこ)」と呼ばれ、「薩手」(幸手)ともいわれた。

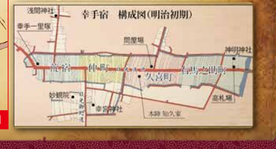
幸手宿のなりたち

日光道が整備される以前より、幸手は利根川水系の一大交通の要衝として栄えていたとされる。鎌倉街道中道の一部が通り、交通の要衝として栄えていたとされる。中世では、古河公方の重臣・野田氏の縁が深く、政治的・軍事的にも重要な場所であったことが窺われる。

江戸時代になると、1604(慶長9)年に幕府により日光道中が整備され、1616(元和2)年に幕府直轄の日光道中奉行が置かれた。幸手宿は日光道のみならず、将軍家による日光社参の道である日光御成道との結節点でもあり、重要な地だったと考えられる。

幸手宿の構成

宿駅としての幸手宿は、南から右馬之助町、久喜町、仲町、荒宿の4ケ町より構成されており、開宿当初は久喜町の一部が宿の中心で、荒宿、右馬之助町が宿の組みみされと考えられている。一説に四三天保十四一年の「日光道中宿村大概帳」によると、幸手宿の長さ58.5間(9町45間)、道幅6間、家数922軒、人数3,937人、本陣1軒、旅籠27軒とあり、城下町に併設された宿を除くと、千住宿、越ケ谷宿に次ぐ日光道3番目の規模を誇った。



詳細図-1

幸手宿の見どころ

1 上高野神社 / 天満宮

上高野村の鎮守。境内社である天満宮(荘嚴天神)は一色五天神のひとつ。

2 神明神社 / 菅谷不動尊 他

幸手宿右馬之助町の鎮守。境内社として成田・菅谷不動尊などが祀られる。社の前面には高札場が置かれていたほか、明治初期の全国測量の際の八号(さざら)水準点が置かれる。

あんばさま
今宮大杉社の祭礼で、6月下旬に疫病のないことを願う神興渡御(とぎょ)が行われる。

3 一色稲荷神社

幸手城の一角に祀られていたと考えられている。別名「陣屋稲荷」。

4 天神神社(裏町天神)

幸手城の鬼門に位置し、守護神として祀られたと考えられる。祭事ののぼりは信学者・金子竹舎が奉納。

5 鳳像山 心観院

本尊は白檀の一木造による一面観音で、幸手一色氏の祈願寺と伝えられる。曹洞宗。

6 玉林山 祥安寺

上高野村の心学者・鈴木百瀬が書写した「大般若波羅蜜多経」(市指定文化財)が所蔵される。曹洞宗。

7 鷹尾山智願院 神宮寺

源頼朝が奥州討伐に向かう際に、鷹を追って当地を訪れ、薬師如来に戦勝祈願したと伝わる。浄土宗。

8 龍興山 寶持寺

幸手一色氏の菩提寺。一色公深の開基との伝。公深の供養塔が建つほか、系譜や雷神像が伝わるなど、一色氏との関係が深い。曹洞宗。

9 幸宮神社

創建より400年以上の歴史を持ち、1914(大正3)年の合祀を機に幸手町の総鎮守となる。

10 荏柿山 満福寺

幸手一色氏が開基した寺院と伝わる。正福寺「義賑窮餓之碑」に記される施餓鬼ここで行われた。真言宗。

11 香水山 正福寺

正福寺には僧侶の修学機関である「談林所」が置かれ、多くの修行僧を教育した。真言宗。
また「徳川実紀」には、将軍に就任する以前で数え年9才の四代将軍家綱が、1649(慶安2)年の日光社参の折、この正福寺に宿泊したことが記されている。

12 雷電神社

明治以前は田宮庄の総鎮守。田宮の由来となった雷神がこの神体と言われ、幸手城主一色宮内少輔が奉納したと伝わる。

御獄山
霊峰木曽御嶽を模した巨大な築山がそびえる。

13 菩提山 聖福寺(しんてら)

将軍家の休憩所と伝わる。浄土宗。本堂の唐破風の形刻は、かの日光東照宮「眠り猫」を作った彫工・左甚五郎の作と伝わるほか、運慶作と伝わる阿弥陀如来、幸手の彫工・後藤義光(または義雄)作といわれる龍樓造の彫刻などがある。山門は唐破風の四脚門で、勅使門と呼ばれる。(市指定文化財)

芭蕉の句碑
169从(元禄6)年、深川芭蕉庵での十三夜連句会で、松尾芭蕉は奥州への旅路を思い起こし「**幸手を行けば葛城の関**」(上の句は「**ありまをは中朝かげにうち立てて**」)と詠んだ。なおその時に弟子の曾良が呼んだ句は「**松おをはさみ柳ゆる門**」で、聖福寺の勅使門を詠んだとされる。

14 浅間神社

創建年は不明だが、本殿は文久2年(1862)に再建されたもの。江戸時代、幸手宿荒宿の豪商長嶋屋が奉納した本殿彫刻は見事。(市指定文化財)

初山
山開きにあたる毎年6/30、7/10の両日に行われる浅間神社の行事。子どもの額に赤い印(判子)を押し、健やかな成長を祈る。

見どころ

岸本家住宅主屋
かつて醤油醸造業を営み、1900(明治33)年パリ万博で明賞を受賞。現在は主屋を残すのみとなったが、古民家カフェやイベントなどに活用されている。(国登録有形文化財)

旅館「朝萬」
1819(文政2)年創業の老舗旅館。趣向に明治末の匠人の宿れが残る。

豪商長嶋屋跡
江戸一帯は明治代にかけて幸手宿で隆盛を極めた呉服商。店舗と2つの母屋、蔵、内四ケ分店をもつ幸手宿きっての大商人。また100ヘ坪の敷地をもつ大地主でもあった。

幸手一里塚
日本橋から12里(約47km)の一里塚跡。街道の両側に築かれ、榎が植えられていた。

本陣跡
幸手宿の本陣は知久家が務め、1876(明治9)年の明治天皇行在所となった。

明治天皇行在所跡
1881(明治14)年と1896(明治29)年の2度の明治天皇の行在所になった旧・中村家跡に建立。跡地は東郷平八郎元帥。

日光御廻道
将軍家日光社参の際の水害の難を回避するため整備された迂回路で、一度も使われなかった幻の日光社参路。いまは「妙観橋」と呼ばれ、妙観院の脇沿に道筋が残されている。

幸手城跡
幸手領主・幸手一色氏の城址。幸手駅周辺に、あったと考えられている。

こらむ 豆腐屋さんが多い幸手宿

幸手には多くの豆腐屋が健在で、まちの特徴のひとつとなっている。幸手では、商工会の協力により、手作り豆腐の魅力を知ってもらう「さって豆富プロジェクト」が始動。現在4店舗の豆腐屋と、飲食店等5店舗のコラボ店舗により、商品開発、販路開拓など様々な取り組みを進めている。

しあわせとうふ ふーちゃん

日光道中道標

境内にある大きな道標。権現堂河岸と日光道中への道標となっている。

義賑窮餓之碑

天明の飢饉の折、幸手宿の商人たちが困窮人たちのために満福寺境内で施餓鬼を行ったことを記念して建立された。(県指定文化財)

八坂神社の夏祭り

大神輿の宮出しに始まり、各町から勢揃いした全7台の山車が、祭囃子とともに幸手なかを練り歩く。300年を越える歴史を誇りつつ、

日光道中分間延絵図(東京国立博物館所蔵)

幸手宿の構成

幸手宿の歴史

日光道中分間延絵図(東京国立博物館所蔵)

詳細図-1